

グローバル化時代に活躍するには

北進ゼミナール

今、大学入試が大きく変わろうとしている。グローバル化時代に活躍する人材を育てるための教育改革の一環である。ところで、このグローバル化時代という言葉は正確に理解しているだろうか。グローバルは“global”という英単語で「地球全体の」「世界的な」と訳す。だから、グローバル化時代とは「世界的な規模で人々が様々な活動を行う時代」と解釈すればいい。その時代を生きる私たちにとって英語力の向上は必須である。なぜなら英語が世界共通語とされているからだ。

英語力の向上と聞くと留学を連想する人も多いと思う。ただ、留学は金銭的負担を伴う。どの国に留学するのかによっても異なるが、半年間で150万円以上掛かるケースもある。それだけの投資をする学生の立場になれば、留学経験は社会的に評価されるはずだと考えてしまうのも無理はない。実際「留学していたのだから就職活動で優遇されるだろう」と期待する学生もいる。ところが、そんな期待は見事に打ち砕かれてしまうことも多い。留学後に意気込んで就職活動に臨んだものの、企業からの評価は今一つで、なかなか採用の内定を得ることができなかったという話をよく耳にする。

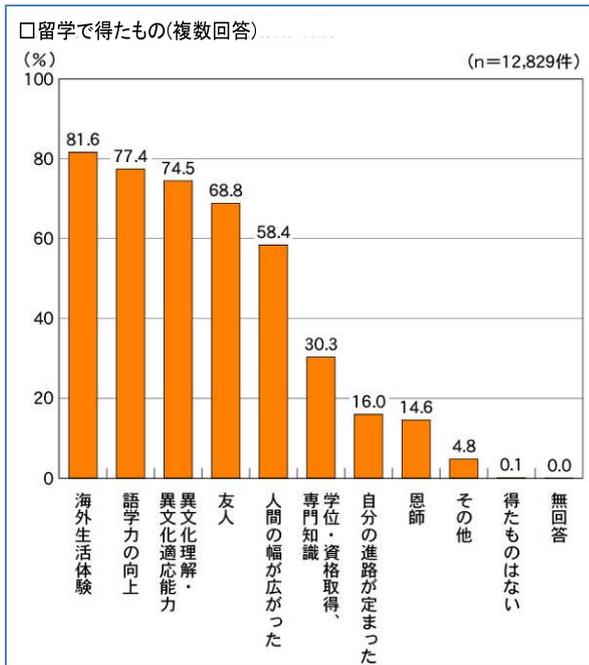
そこで、グラフⅠとグラフⅡを見て欲しい。グラフⅠは留学経験のある学生が留学で得たと考えているものを表している。一方、グラフⅡは海外生活や留学を経験している若者に企業が期待する能力や資質を表したものである。因みにグラフⅡの項目にある主体性とは「何をやるべきかが決まっていない状況であっても自分自身で考えて行動を起こしていく姿勢」という意味だ。二つのグラフを見比べると、学生が留学で得たと考えているものと企業が海外体験を有する若者に期待するものとの間に、一部の項目や優先順位の面で食い違いのあることが分かる。留学経験者が就職活動で苦戦してしまう要因の一つはこの辺りにあるのではないかと考える。

繰り返しになるが英語力は大事である。しかし同時に、英語力だけで社会的評価を得ることは難しいと思っておいた方がいい。グラフⅡから読み取れることに加えて、一人の人間として日本人からも外国人からもリスペクトされるだけの人間性が求められると認識すべきである。そして、この人間性を構成する要素の一つが教養なのだ。

来年には東京オリンピック・パラリンピックが開催される。その誘致の際に滝川クリステル氏がアピールした「おもてなし」というフレーズを記憶している人も多いだろう。「おもてなし」とは相手を思いやって対応することだ。言葉のやり取りにもその心を込めることができると思う。例えば、外国人が日本に関する質問をしてきた場合を想定したい。彼らがよく尋ねてくる質問の一つに「食事の際の『頂きます』とは何なのか」とあると聞く。資料Ⅰと資料Ⅱはそれに対する回答例だ。訪日してくる外国人は日本に興味を持っている可能性が高い。彼らの知的好奇心に応えるには、それなりの英語力に加えて日本人としての教養が必要不可欠だ。自分の英語力と相談しながら、相手の求める内容レベルにも思いを馳せて回答を創りあげていく。これも「おもてなし」の一つに含まれるのではないだろうか。

「英語力を身につけてから…」と先送りにすることなく、同時進行的に身につけるべきことが私たちにはいくつもある。将来、グローバル化時代に活躍できる人材になるにはどんなことを頑張ればいいのか、ぜひ考えてもらいたい。

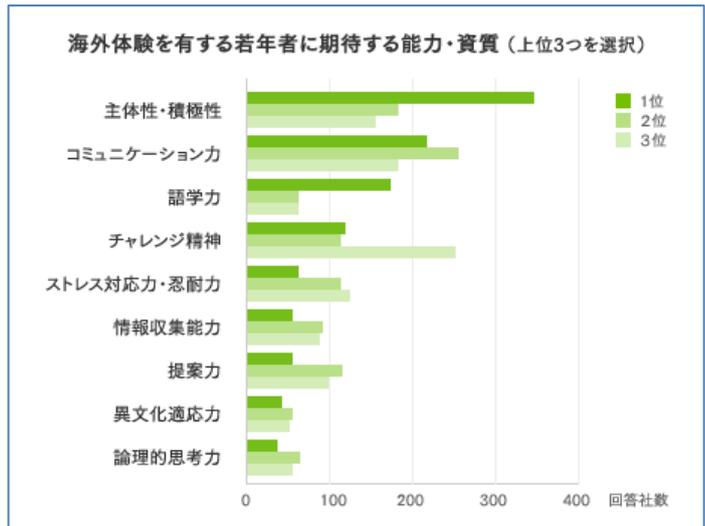
【グラフⅠ】



「海外留学生経験者の追跡調査」

(H17 独立行政法人日本学生支援機構)

【グラフⅡ】



「海外体験を有する若者の採用・活用に関する調査報告書」

(H25 厚生労働省委託 JAOS 海外留学協議会)

【資料Ⅰ】

日本では食事の前に「いただきます」と言います。「いただきます」とは「他人から何かをもらう」という意味です。どの食べ物もあらゆる生き物から作られています。だから、私たちは「命を与えてくれてありがとう」という意味で「いただきます」というフレーズを使っているのです。私はこの習慣を誇りに思っています。

We say “Itadakimasu” before we take a meal in Japan. “Itadakimasu” means “I’ll get something from others”. Everything to eat is made from all living things. So we use the phrase “Itadakimasu” in order to say to them, “Thank you for giving us your life”. I’m proud of this custom.

【資料Ⅱ】

日本では食事の前に「いただきます」と言います。「いただきます」というフレーズは「受け取ること」の丁寧な言い方で、目上の人から何かを受け取る時によく使われます。実は、日本には仏教由来の言葉がたくさんあります。これもその一つなのです。仏教の教えでは食べ物を含むあらゆるものに精霊が宿っているとされています。だから、「いただきます」と言うことによってそれらに感謝を表すのです。それだけではありません。食事を用意してくれた人への感謝の気持ちも表現しているのです。因みに、私たちは食事の後には「ご馳走様」と言います。これも感謝の表現なのです。私はこの習慣を誇りに思っています。

We say “Itadakimasu” before we take a meal in Japan. The phrase, “Itadakimasu”, is the polite form of saying “to receive” and it is often used when we get something from our superior. Actually, there are a lot of phrases which come from Buddhist teachings in Japan. This is one of them. In Buddhist principles, everything that includes food has a spirit. So we express our gratitude by saying “Itadakimasu”, but that’s not all. We also thank the person who cooks the meal. By the way, we say “Gochisousama” after we take a meal. This is the expression of our gratitude, too. I’m proud of this custom.

グローバル化時代に活躍するには

課題文にあるように、私たちはグローバル化時代に生きています。グローバルという言葉を聞くと英語を連想してしまい、英語力向上ばかりに意識が向きがちですが、それだけでは不十分であると考えます。課題文・グラフ・資料から読み取れることを踏まえて、どんな力を身につけたいのか、また、どんな努力をしていきたいのか等について以下の条件に従って書いてください。いきなり作文用紙に書きだすのはお薦めしません。下書きを行った上で別の日に改めて読み直し、誤字脱字・助詞や主語述語の不整合を直した上で清書するようにしましょう。

なお、(3)でテンプレートが示されていますが、必ずしもそれにこだわる必要はありません。(1)と(2)の条件を守れば自由に書いて構いません。

(1)指定作文用紙に 800 字以内で書くこと。タイトルは不要です。

(2)以下の三点を含めて「グローバル化時代に活躍するには」というテーマで書いてください。

- ①グラフⅠ・グラフⅡそれぞれの項目で共通するものが存在する。その共通項目に着眼して二つのグラフの違いに具体的に触れた上で、自分自身が今後最も身につけていきたいと思う力(主体性含む)をグラフⅡの項目から選び、その理由についても書くこと。
- ②資料Ⅰと資料Ⅱを比べて、5年後の自分自身が外国人に説明するとしたらどちらに近い回答をしたと思うか。そして、その理由についても書くこと。
- ③課題文・グラフ・資料全体を踏まえて、今の自分自身に不足していることに触れた上で、それを克服するためにどんな努力をしていきたいか。できるだけ具体的に書くこと。

(3)書き方がよく分からないという生徒は以下のテンプレートを参考にして書いてください。

- ①「グローバル化時代とは～な時代である」
- ②「留学で得たものとして～や～という項目がグラフⅠでは上位を占めているが、企業が期待する力を示すグラフⅡではそれほど高くない評価となっている。代わりに～や～の項目がグラフⅡでは上位を占めている。社会で活躍できるようにするために私は～の力(or 主体性)を身につけていきたい。なぜなら、～だと思うからだ」
- ③「資料にもある通り、今後、外国人に日本に関する説明をしなければならないケースが増えるはずだ。もし、同じような質問を5年後の自分が受けた時には、私は資料○のような説明をしていきたい。なぜなら～だからだ」
- ④「今回の課題への取組みを通じて今の私には～が不足していることを自覚した。この弱点を克服するために～のような努力をしていきたい」
- ⑤「5年後の自分が～のようにになっているのが理想だ。その理想を実現するために頑張りたい」

以上